

町民一人ひとりが交通ルールを守り

## 交通死亡事故ゼロ1000日を達成

6月16日の午前0時で交通死亡事故ゼロ千日の記録を達成した事により、18日に只見町役場で表彰式が行われ、南会津地方交通対策協議会の鈴木一夫南会津地方振興局次長から表彰状が手渡されました。

町民の皆さんにおかれましてはこの記録を重ねていけるように交通ルールを守り安全・安心な町になるよう一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

地域の見守り強化

## コープあびつと高齢者見守りで連携

町と生活協同組合コープ会津は「地域見守りネットワーク」に関する協力協定を6月10日に結びました。このことにより、コープあびつの配達員が宅配などで高齢者宅を訪問した際、郵便物がたまっていないなどの異変を発生した場合に町に連絡をして頂く事となり異変の早期発見や安否確認ができる体制が強化されました。



▲吉川専務(左)と協定を結ぶ矢沢課長



▲鈴木次長(右)から表彰状を受けた目黒町長

自民党青年局 TEAM11

## JR只見線被害状況を視察

自民党青年局が11日に豪雨災害で被災したJR只見線などを視察するため只見町に訪れ、寄岩地区にある只見線第八橋梁や八木沢地区などを視察し現状を確認しました。

その後、季の郷湯ら里で只見川流域住民との意見交換会が開かれ、住民からは「観光客を呼び戻すには只見線は必要不可欠」「電車が走る事で地域の安心感が生まれる」など只見線早期全線復旧の必要性が語られました。

小泉進次郎局長は「只見線復旧はこの地域の未来を決める事にもなる。どうしたら復旧出来るか皆で考えていきましよう」と話され国に要望を届ける事を約束されました。また、「視察に来て本当に美しい所だと思つた。再開通したらぜひ一番に只見線に乗りた

い」とも話されました。



▲小泉議員に災害時の状況を説明する目黒町長

只見の魅力を見

只見小学校でミニ講演会

6月7日に只見小学校の児童を対象にミニ講演会が行われました。

この講演会は普段生活している中では気づかない只見町の魅力に気づいてもらうため会津地方振興局が主催となり開催されました。

講演者は番所茶屋「叶屋」を運営されている伊豆 真一さん。たまたま登山で訪れた只見町を気に入り移住を決めたという方で、只見の魅力に気づいた方のひとりです。

伊豆さんは「只見は水と空気が、自然環境が素晴らしく景色の美しさで有名な只見線もあり誇りに思っています。また、「夢」や「志」を大切にしている自然を愛する気持ちを持ち続けて欲しい」と話されました。

児童達は講演を熱心に聞き只見の魅力に気づくと共に「夢」を持つ事の大切さを学びました。



▲自分の経験から只見町の素晴らしさを語る伊豆さん

自分達の地域を知る

小林地区「元気な集落再生ワークショップ」

明和自治振興会が主体となり6月9日と16日の2回に分けて小林地区の集落再生ワークショップが実施されました。このワークショップは、物や数字だけではなく自分が住んでいる地域の今を理解するため実際に皆で見て考える事で住民が主体となったこれからの集落の姿を描くというものです。

専門家の指導のもと、9日は5グループに分かれ集落の宝や課題について整理を行い16日は実際に小林集落を歩いて見過ごしている課題や魅力が無いかの確認が行われました。

参加者は真剣に取り組みながらも楽しそうにワークショップを行いました。

この元気な集落再生ワークショップは小林集落を皮切りに明和地区全集落で実施される予定となっています。



▲集落内を歩き自分の目で現状を確認



▲魅力や課題を皆で書き出しました

# 平成25年度「自然首都・只見」

## 学術調査研究助成金事業の助成研究が決定！

昨年開始した「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業を今年度も実施します。

この事業は、只見町の生物多様性の保全・再生・活用、また、持続可能な生態系サービスの活用や自然再生に関する調査研究を行う研究者に助成を行い、それらの価値を科学的に明らかにすることで「自然首都・只見」ブランドの向上をめざすものです。年度内には研究成果発表会を開催し、町民の皆様には研究成果をお知らせするとともに、各研究機関との交流の推進、研究成果の活用も期待されます。

また、只見町は人と自然との共生を実現する地域であるユネスコエコパークの登録を目指しています。ユネスコエコパークは①自然環境・生物多様性の保護・保全、②調査研究・人材育成、③地域の資源を持続可能な形で利活用した地域社会の発展（産業振興）の3つを目標に掲げています。今回の助成金事業は、この目標のうちの調査研究・人材育成に位置付けたユネスコエコパーク関連事業となっています。

公募と審査の結果、下記7件の研究者・研究テーマについて助成を行うことが決まりました。

助成研究者代表	所属研究機関	調査研究テーマ
宮下 彩奈	東京大学 日光植物園	ブナ林の維持・再生に関わるブナ個体の生育条件の研究
大曾 根陽子	首都大学東京	只見地方におけるヒメサユリ個体群の維持機構の解明
新国 可奈子	新潟大学大学院	山地河畔林における大規模攪乱（平成23年7月新潟・福島豪雨）後の植生更新
斉藤 真人	横浜国立大学 大学院	多雪山地溪流沿いに成立する森林群落の成立と地形の対応
三田村 敏正	冬虫夏草の会、 福島虫の会、など	只見町のブナ林を中心とした森林における冬虫夏草と生物多様性に関する研究
加藤 英寿	首都大学東京	「奥会津要素」の由来と実態の解明 —主にツクバネウツギ属を対象として—
首藤 光太郎	福島大学大学院	福島県只見町のいくつかの湖沼、水路、水田の水生植物相

なお、この事業は只見町ブナセンターとの連携の下に行います。町内で只見町ブナセンターの腕章・ロゴを付けた研究者・車両を見かけましたら、調査中ですので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（お問い合わせ 只見町役場総務企画課企画班 82-5220）



### 電源開発株式会社 非常食を寄贈

6月12日に電源開発株式会社より水や食料などの非常食を寄贈して頂きました。

この非常食は消費期限もあることから、6月30日に実施しました防災訓練の際に炊き出しとして住民の皆さんに配布させて頂きました。ありがとうございました。

浅草岳山開き(6.23)



## 登山シーズン本格化 各山で山開き

只見町の各山では山開きが行われ県内外から多くの登山者が只見町を訪れました。浅草岳は豪雨災害で登山道の崩落や土砂崩れにより一般登山者の入山が規制されていましたが、復旧作業が終わり2年ぶりの山開きとなりました。この山開きを待っていた登山者約400名は新緑の景色を楽しみつつ山頂を目指しました。

なお、会津朝日岳は豪雨災害の被害が大きく今年も登山禁止となっていますのでご注意ください。

蒲生岳山開き(6.2)



要害山岳山開き(5.12)



## 新緑を駆け抜ける 風つこ只見新緑号が運行しました

6月8日、9日の2日間、小出駅～只見駅間をトロッコ列車が運行しました。

久しぶりの運行となったトロッコ列車ですが、「ガタンゴトン」とゆつくりと走る列車に揺られながら気持ちの良い風を受け渓谷の綺麗な景色を眺めることが出来るので乗車された方は気持ちのいいひと時を過ごしたようでした。

今後運行される場合は、事前にお知らせをしますので、ぜひ乗車してみてください。



④トロッコ列車から見える風景

⑥只見駅に停車したトロッコ列車